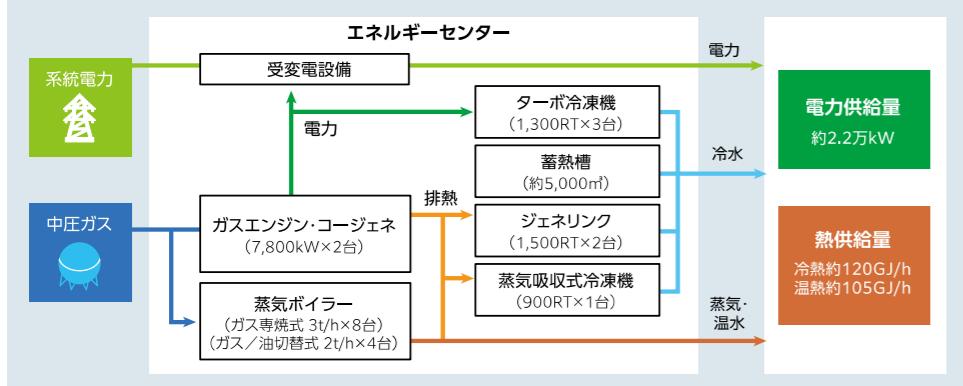




■ エネルギーフロー図



と、半世紀にわたる地域エネルギー供給事業の実績をもつ東京ガスが設立したMFTGは、災害に強く、省エネ・省CO₂な街づくりに貢献するスマートエネルギープロジェクトに取り組んでいます。八重洲ECでは、コーディネートを含む熱源プラントを、地震の影響の少ない地下4階に、揺れに強い構造で設置している。水害対策には、プラントに水が入らないように地下4階から地上2階まで壁を立ち上げた「壺型潜水艦構造」を採用。特高受変電設備などは地上5階に設置し、災害からプラント自体を守っています。コーディネートによって送電している。コーディネートの燃料には災害に強い中圧ガスを利用し、系統電力が停止した場合でもガス発電した電力は、系統電力と合わせて需要家に送電しています。コーディネート自体は、系統電力と合わせて需要家に送電している。コーディネートの電気・熱の供給が可能である。東京ミッドタウン八重洲には、建物用の非常用発電機との併用により停電発生時から72時間は平常時と同じ100%の電気を供給できる。

蓄熱槽は約5千m³の容量があり、熱源のバッファーとして使う他、断水時には蓄熱槽の水を熱源の冷却水として利用できる。加えてコーディネートの冷却はラジエータで行う空冷タイプとなつておらず、断水にも配慮している。

非常時にはバスター・ミナルや一時滞

在スペースにも電気・熱を供給できるようになっている。被災者や物資の輸送にバスの活用を可能にし、防災における重要な役割を担うとともに、携帯やパソコンの充電コンセント、災害情報を流すデジタルサイネージ、更に空調も稼働させることで、帰宅困難者の不安や疲労を軽減することが期待される。

八重洲ECのエネルギー・マネジメントシステム（以下、EMS）には、最新のICTを導入している。過去のエネルギー需要実績や天気予報、スケジュールなどの情報から翌日のエネルギー需要を予測し、コーディネートなどの運転計画を立案・制御する。コーディネートの運転は電主熱從を基本とし、経済最適を計算した上で運用している。また、熱源はターボ冷凍機やジェネリング、蒸気吸収式冷凍機、蒸気ボイラーや蓄熱槽などで構成され、多様な運転に対応できる。

■ ガスエンジン・コーディネーション仕様概略

メー カー	川崎重工業株式会社
モ デル 名	KG-18
燃 料 種 別	都市ガス(13A)中圧B
定格出力/台数	7,800 kW × 2台
温水取出温度	95.1°C(MAX)
効 率	総合:76.9% 発電:48.5% 排熱回収:15.4% (蒸気)、13.0%(温水)

※省エネ法における電力の一次エネルギー換算係数(竣工時点)に基づく

八重洲 エネルギーセンター

YAESU ENERGY CENTER

既存建物を含む 持続可能な街づくり

取材・文:成田 洋二

八重洲エネルギーセンター(以下、八重洲EC)は、多くの鉄道、バスが乗り入れる交通拠点である東京駅の東側エリア「東京ミッドタウン八重洲」内にあり、八重洲二丁目エリアのエネルギー供給を担っている。エネルギー供給事業者である三井不動産TGスマートエナジー(以下、MFTG)が取り組む日本橋・豊洲に続く3施設目のスマートエネルギー・プロジェクトである。

東京ミッドタウン八重洲は、オフィスや店舗、外資系5つ星ホテル、バスターミナル、公立小学校など多彩な要素で構成されており、2023年3月にグランドオープンした。

エネルギー供給先は「東京ミッドタウン八重洲」だけではなく、既存施設である「八重洲地下街」も含まれており、街全体の防災力・環境性能の向上に貢献している。

■ 施設概要

所 在 地	東京都中央区八重洲二丁目1番・2番の一部および3番
設 置 階 数	地下4階、地上5・6階
施 設 面 積	約12,300m ²
エ ネ ル ギ ー 供 給 面 積	敷地面積:約18,000m ² 延床面積:約350,000m ²
竣 工 年 月	2022年7月(供給開始:2022年9月)
建 物 用 途	事務所、店舗、ホテル、小学校、バスターミナル、子育て支援施設、住宅など

コーディネート導入のポイント

- ① BCP対応
- ② 省エネ、低炭素化
- ③ 電力ピークカット(経済性)

